

# 2019年度 国際関係学部オープンキャンパス

## 模擬授業の内容紹介

### 浜由樹子先生

#### 「国際政治の『見方』」

大きな変動にさらされ、多様で複雑な様相を呈する国際政治をどう理解するか—国際政治学には様々な「見方」があります。初めて国際政治学という学問に接する方々に、これまで多くの研究者が築き上げてきた主要な理論(視点)をわかりやすく紹介します。具体例を用いつつ、参加者の皆さんの意見を聞きながら、現代国際政治をどうみるか考えてみましょう。

(3108 講義室)

### 森直香先生

#### 「アダプテーションと文学」

ドラマ『家政夫のミタゾノ』、DA PUMP『USA』の共通点は何でしょうか? 人気のある小説やマンガの映像化、以前流行した楽曲のカバーバージョン、テーマパークのアトラクションなど、アダプテーションは私たちの身近にある現象です。模擬授業では、この現象を学術的な視点から捉え、アダプテーションとは何か、そして、ある作品がアダプテーションされる時どんなことが起こるのかを音楽を例に考察します。

(3215 講義室)

### 古川光明先生

#### 「国際協力の現場」

現代の国際社会は混迷の度を増しています。紛争や暴力的過激主義、貧困や格差、感染症や自然災害、難民問題など、複雑で相互に関連する国境を越えた課題が山積しています。このような国境を越えた課題が広がるなか、宗教間、民族間、そして、国民間や国家間においても信頼の崩壊が拡大しており、その象徴的なものとして、南スーダンの紛争を通じた民族間対立があげられます。その南スーダンにおいて独立後初めて開催されたスポーツを通じた平和構築支援について紹介します。

(3219 講義室)

## 高畑幸先生

### 「外国人労働者が増える仕組み ～国境を越える人の移動と私たちの便利な生活～」

日本の総人口ピークは2007年の1億2777万1千人で、2018年は1億2644万3千人と、11年間で133万人減っています。一方、全国にあるコンビニの数は、2007年は4万0929軒だったのが2018年には5万5743軒と1万4814軒増えています。消費者と労働者が減っているのに「便利な店」は増えている…なぜだと思いますか？「便利さ」の担い手が外国人労働者です。彼（女）らが日本で働くための仕組み、そして多文化共生社会の在り方について考えましょう。

(3313 講義室)

## 澤田敬人先生

### 「オーストラリアの学力アセスメント」

最近先進各国では学校教育を受けている生徒を対象に、学力向上政策の成果を見るための学力テストを行っています。オーストラリアでは、1990年代後半からNAPLANと呼ばれる全国学力テストを生徒に課しています。その結果の公表については、ウェブサイトで各学校の学力状況のみならず、財務や生徒の社会経済的指標に基づく状況を示しています。詳細な情報を公表しつつ、NAPLANで成果を出せなかった学校へ重点的な資金提供が行われています。このようなオーストラリアの学力アセスメントのあり方を分析し、比較研究の素地を養います。

(3314 講義室)

## 下條尚志先生

### 「自分を取り巻く世界を理解するには－東南アジアから考える－」

東南アジアと比べ、日本は「単一民族」だという学生の意見をよく耳にします。ですがこの理解は、日本のマイノリティや移民の歴史を考えると明らかに幻想です。ある人類学者は「人間は自分自身が張り巡らした意味の網の中にかかっている動物」[ギアーツ 1987:6]と定義し、この網を文化と捉えます。私たちは小さな網の目から見えるものを解釈しているに過ぎません。では、この網を丁寧に解きほぐし、自分を取り巻く世界を理解するには、どうすればいいでしょうか？私の授業では、東南アジアから考えることで、複雑に絡まりあった網を解きほぐし、より広く、遠くを見渡せる方法を考えます。

(3316 講義室)